

表4 各測定所における全β/全α放射能濃度比に係る対応基準値

測定所	利尻	竜飛岬	鹿島	筑波	佐渡関	越前岬	伊自良湖	隠岐	蟠竜湖	梶原	対馬	五島	辺戸岬
対応基準値*1	2.0	2.0	2.3	2.3	1.8	2.3	2.0	2.1	1.8	2.0	2.1	1.8	2.0
全β/全α比*2の の平均値	1.3	1.3	1.5	1.5	1.2	1.5	1.3	1.4	1.2	1.3	1.4	1.2	1.3

*1 全β/全α比の平均値×1.5

*2 集じん中測定における全β/全α放射能濃度比(6時間値)の平均値(平成15年1月～12月)

4. まとめ

4.1 自動測定データの整理及び解析

(1) 空間γ線線量率

- ①空間γ線線量率について、最大値、最小値、平均値等を算出するとともに、その変動範囲及び変動原因について解析を行った。その結果、平成15年度調査における空間γ線線量率の変動範囲は、すべての測定所において、過去の調査結果及び文部科学省の環境放射能水準調査と同程度であった。
- ②変動原因は、降雨や降雪による影響がほとんどであると推測され、人工放射性核種の影響は見られなかった。
- ③定期点検後、自動測定データのベースラインに顕著な変化が見られた測定所があり、機器の管理方法について検討が必要である。

(2) 全α・全β放射能濃度

- ①大気浮遊じん中の全α・全β放射能濃度及び全β/全α放射能濃度比の最大値、最小値、平均値等を算出するとともに、その変動範囲及び変動要因について解析を行った。その結果、平成15年調査における大気浮遊じん中の全α・全β放射能濃度の結果は、過去の調査結果及び原子力施設周辺の環境放射能調査と同程度であった。
- ②自動測定装置の校正、ろ紙装着の不備等の人為的な影響を除いて、変動原因については、気象要件による変動と考えられ、人工放射性核種の影響は認められなかった。

4.2 モニタリング測定値に係る対応基準の設定

大気浮遊じん中の全β/全α放射能濃度比が平常時の平均値の1.5倍となった場合をモニタリング測定値に係る対応基準とした。ただし、集じん開始30分までのデータは除外することとした。

上記の条件で平成15年度の測定結果について確認したところ、対馬測定所においては10分値が対応基準値を頻繁に超過することが判明した。このため、原因を調査し、できる限り安定した測定が行えるよう改善を図ることとする。